

## <白金標準先物、修正波動の終了から 4489 円へ回帰・・・>



(出所：オアシス)

日銀金融政策決定会合で YCC の許容範囲を 0.25%引き上げた事から為替市場で大幅な円高・ドル安を受けて円建て価格の白金標準先物は、4105 円まで下値を試している。

そのためチャートで示したエリオット波動論の 5 波動を終え、4633 円 (⑤) から修正波動の A、B、C の域に入り、4263 円 (A) まで 370 円の下落を行ない、一時 4489 円 (B) まで戻しながら、再度 4111 円 (C) まで 378 円の下落を行うなど A、C が同等の下落幅を示し修正波動が終えた形を示している。

また週末は、一時 4105 円まで下値を試しながら PCE コアデフレーターやミシガン大消費者信頼感指数の 1 年後のインフレ期待が低下するなど、インフレ抑制を受けた指標に買い戻しを強めて一挙に 4286 円まで戻りを見せている。

特にアイルランドのリサーチアンドマーケットは中国のプラチナ輸入に関する調査レポートで 2021 年に 85.4 トン、2022 年 1 月～10 月で 62.13 トンのプラチナ輸入を行なっていると指摘し、1g あたり輸入平均価格 2022 年は 31.51 ドルと指摘しており、白金標準先物で示すと 4180 円の計算となるため、4200 円以下になると反発を示す値動きが予想されるなど底堅い値動きに注目したい。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD とシグナルが下がり、RCI でも短期と長期が下げており下向きの動きを示していると思える。ただ新甫 12 月限の発会を控えたつなぎ足のチャートであり週末の 145 円の上昇が反映されていない。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2022 年 12 月 26 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 12 月 26 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>